ブラン公演決定！

二〇〇〇年五月三日(水)憲法記念日
於　高円寺 20000V(tel.03-3316-6969)
open 6:00/start 6:30

遁生レコードの稼ぎ頭、ブランの二〇〇〇年初公演が決定。時は五月始め、連休初日の憲法記念日。対バン予定はバハマダ、エンマノバ他。今年は爆裂活動宣言のブラン。新曲充実、現在今回の公演に向け一点集中猛リハーサル中。ひとまず一見すべし。知らぬバンドに無駄な時間など割けぬというなら遁レコオフィシャルサイト「遁生レコードの世界」(http://webs.to/tonreco)にて最新音源が試聴可。リアルオーディオのストリーム再生にMP3のダウンロード・・・持ってけ泥棒。それも嫌ならデモCDを無料配布中。kakou@t3.rim.or.jpまでご一報を。お気に召すればチケット予約もこちらにて受付なり。

ギ○ーンカ○ット次のリリースはブ○ン!?

三月九日、ブランと親密交際を続ける京都のシノワのオフィシャルサイト「シノワマイクロコスモ」(http://www03.u-page.so-net.ne.jp/sc4/shinowa/)掲示板に「ギュ○ン社長ス○ラさんより伝言あり」の文字。果たして一体？とその日は夜もろくすぽ眠れず、夜が明けてメール見たら右記の知らせ。いやはやホンマかいな。私に伝えておけってことだからあながち嘘ではあるまいが、しかし買いかぶりすぎではあるまいか。「ゆーといたってー喜ぶとおもうねん」とのお言葉もありで、全くそりゃあ喜ぶっての。

しかし九八年六月のファンダンゴでの公演以来、ウチの音ってスハ○さんの耳に入ってないし、ひとまず最近の音源をデモCDとして送付「今こんな感じっすけど、思い直すなら今ですよ」との手紙を添える。

四月二日、京都からシノワのリーダー平田氏が遁レコオフィスを訪問、話を聞く。ギ○ーンは関西、バンドは関東という距離の問題がありで東京でレコーディングの場合、「ギュー○に金が貯まってから」という条件付きらしいが、場合によっては、こっちで音源を完パケして、それを出すという方向もあるようだ。いずれにせよやはりホントらしい。「とにかく、手紙でなく電話を一本入れるべし」との平田氏のアドバイスを受ける。とにかく近い内にそういうこともあるから覚悟しておけとのお言葉と受け止めておくことにする。

四月九日、意を決してスハ○氏に電話。生憎留守。留守電を残す。この日外出から戻ると・・・○ハラ氏よりメッセージあり。

「また電話します・・・曲貯めておくように」

・・・硬直。また眠れぬ日が続きそうだ。

というわけで確定情報ではございません。「噂の真相」の一情報レベルの話ですな、まだ。以後詳細は遁レコサイトにて！

ブラン公演は五月三日
高円寺二〇〇〇〇V

盟友シノワ平田氏
ブラン、可幸月貝を語る。

■「シノワマイクロコスモ」(www03.u-page.so-net.ne.jp/sc4/shinowa/)より転載

●ブラン

「遁生レコード」代表アダチ氏率いる東京在住のバンド。詳細情報やディスコグラフィーは氏のサイト「遁生レコードの世界」を御覧いただきたい。「ブラン」は関西でも数度ライヴを行われ、関西での評判が非常に高い。スリーピースを感じさせない音圧と、他に類型を見ない独自の世界を展開される。東京では高円寺20000Vなどで活動。

「現代における『サイケ』って何だ？」60年代の「サイケ」リアルタイムに数多の「サイケ」バンドのメンバーは、そのトリップ状態を音として表現したり、さらにはクスリをやりながらその効果を高めるような音を創ったりしたそうです。現在でもそれを実践されている方は多数いらっしゃることでしょう。

しかし、90年代の音楽再構築の時勢には、「サイケ」という概念はその「状況」を指すコトバではなく、単に「音」として抽出され、再構築されたと思うのです。

例えば、「ライド」の方法がその典型例でしょう。さわやかな「無菌」的ルックスから放出されたその音には「サイケ」色がかなり濃厚に見えました。世の中にはそういう方法を酷評する方もいらっしゃいました(某誌上に詳しい)。その方法は擬似「サイケ」であり(「スペースメン3」のこともボロクソに言ってた)、真の「サイケ」は精神的なモノが見えなければならないと。

しかし「ライド」を「サイケ」バンドだと定義する人は皆無だったのではないでしょうか。

そもそも、90年代に「サイケ」バンドってのは一般的には死語化しつつあるような気がします。広くしられた有名バンドの中にも「サイケ」要素が濃いバンドは沢山ありましたが、それらが「サイケ」だと言われることは殆どなかったものと思われます。

私自身クスリはしませんが、私が所属する「シノワ」を「ポップガレージサイケ」と定義化したりしております(つまり、一部評論家のいう「擬似サイケ」)。

結局、「音」って、自分の中にある抽象概念を「音」として具体化するわけですから、自分の思ってる「音」が「サイケ」な「音」に似ていたり、また、そういう求めてた「音」をやってるバンドに影響受けたりして、みずからの「音」が形成されるのだと思うのです。

「ブラン」も「シノワ」同様、カテゴリー的には「サイケ」といえるバンドです(つまり「ブラン」も「擬似サイケ」？)。

前述の私の考える「90年代的サイケ再構築」理論から察すると、「ブラン」のサウンドもいろいろな「音」に影響されながらも、結局、自分が表現できる「音」としての「サイケ」に行き着かれたのだと思います。つまり、「サイケ」バンドながら「サイケ」バンドではないものと推測されるのです。

一度大阪十三ファンダンゴで拝見しましたが、それはそれは緊張感みなぎるテンション高いバンドでした。

アダチ氏ご本人は謙遜されますが、そのギターワークには私自身かなり惚れ込んでおります。またVOスタイルについては、「本人の本人による本人のため」の「カラダからナチュラルに吐き出る『コトバの塊』」という表現が私に

はしっくりときます。

こんなことをいうと「古臭いロック」だとソッポ向かれる方もいらっしゃるかもしれません。しかし「ブラン」においては、このこともまた「90年代の方法」として再構築されており、積極的に評価して良いと思うのです。

また、Baの高橋さんのうねりまくったベース(ベースを弾く高橋さんの姿は本当にかっこいい)と、繊細なオカモトさんのドラム(遁注・99年初当時。現クリテツ)。シンプルかつアグレッシブなドラムとはこういうドラムを指していうのでしょう。この一見表裏なリズム隊が実に気持ち良く絶妙です。スリーピースながら、ああいう分厚い音がだせるのも、強力なリズム隊の功績が大だからでありましょう。

「ギューン・カセット」スハラさんも大絶賛のバンドです。本気で『ライヴ・アット・ファンダンゴ』はハマりました。広く聴かれるべきライヴ盤です。

ブラン公演は五月三日
高円寺二〇〇〇〇V
■「遁レコ通信読んだ」
でチケット最大限割引
をさせていただきます。

●可幸月貝

遁生レコードアダチ氏のソロ名義の作品。自身のバンド「ブラン」では収まりきれなかったことを、宅録、セルフ録音ならではの「私的世界」で表現される。CD『Fragment』をリリース。この(CD)も「ギューンカセット」スハラ社長絶賛の逸品。

アダチ氏率いる「ブラン」を初期「ピンクフロイド」に喩えれば、「可幸」の音源は一連の「シド・バレット」のソロワークスに値するものでしょう。60年代のサイケバンドのリーダー等が作るソロアルバム同様「バンドでは派手に・ソロでは地味に」の傾向を継承されております。個人的内的世界を表現するに当っては当然帰結すべき方法だったでありましょう(内的世界は「地味」に表現しなければならないという訳ではありませんが)。

「ブラン」にはしばしば「攻撃的」な要素が見え隠れしておりましたが、それは他者を標的としたモノではなく、「自己」に向けられた『攻撃』であったのではないかと思うのです。またその「攻撃」は、パラドックス的に「他者に向けた『攻撃』」としての意味をも内含していたとも思うのです。私はそういう世界観に深く共感したものでした。

しかし「可幸」の作品には、自己に「攻撃」を加えつつも「どうしようも出来ない自分から逃避したい」世界観が作品を通じて表現されているのではないかと考えております。サウンド自体がそういう「テクスト」として存在しているかのようで、例え「歌詞」を聴かずとも作者の伝えようとする抽象概念が伝わってくるようです。「歌詞」を生かすためのサウンドでもなく、サウンドを生かすための「歌詞」でもない。いわば、「音」と「歌詞」が未分化な状態で楽曲として「テクスト」化されているといった感じでしょうか。私は上記の如く「テクスト」を解釈しましたが、皆様は如何でしょうか。

(補足)
楽曲の方はメロディーラインのみを抽出すれば、ポップソングとしての体裁も整っており、氏が有するポップな要素(氏は大のビーチボーイズフリークでもある)も確立されていたりと、聴きどころが多いアルバムです。初めて聴くより、二回目、二回目よりも三回目と聴き込むにつれて味わい深くなるアルバムです。
(シノワサイト「microcosm big bang」より転載)

九九年私の五枚

遁レコサイト年末年始恒例企画

■Beach Boys/Unsurpassed Masters vol.15-17(Sea Of Tunes C9946-9952)

誰が何と云おうと99年最大収穫物はこいつ。

BB専門ブートレーベルSea Of Tunesが「SMiLE」関連のレコーディングセッションを最高音質でぶち込んだ全7枚。去年辺りから「出るぞ出るぞ」と云われつつ、長いこと待たされたものでありますが。今年の初夏くらいでしたか、海外でのリリースが伝えられるようになって各種BBサイトやBBSでとんでもなく盛り上がっているんだけど、英語だからさっぱりわからん。そんな中、国内への荷物が税関で引っかかって、西新宿やらに出回るにはしばらく時間がかかりそうだなんて話になって何とも歯がゆい思いをしたもの。

まぁとにかく。いやはやむさぼるように聴きました。「SMiLE」音源の試行錯誤にとにかく夢中になったもの。執拗なまでに繰り返される「ストップ!やり直しだ」のブライアンの声。次々と音像を変え理想の姿へと発展していく楽曲。

そうなんだよ、僕だって自分の音楽の完成形が頭の中でちゃんと聴こえているならこうしたいさ。出来ないから君のかつてのやり方を夢中になって聴いてバンドの独裁者となった自分を夢想するのさ。

嗚呼、音楽的才能非保持者の時間浪費。しかし、幸せ。とにかくまず「SMiLE」ものを1枚という方には、収録予定曲の完成形に最も近いものをオフィシャル、ブート入り混じりで収録したvol.16をお薦めいたします。さぁ君もこの泥沼にずぶずぶ埋まってみようじゃないか。

絶賛発売中!
ブラン
ライブアルバム
at Fan-dango980621
(TORCD-2)

■Beatles/Yellow Submarine Songtrack(TOCP-65300)

99年裏大賞がBBのアンサパなら表大賞作はこいつでしょう。

ジョージマーティンの引退でついに禁断の扉を開けてしまったBeatlesリミックス。彼らの音が最もきらきらしていて「ポップ」だった66〜67年の作品を中心に新しい命が吹き込まれた音世界。

始めこのプロジェクトの話を聞いた時、楽曲がめちゃめちゃにされてしまうんじゃなかろうかと考えたモノだが、さすがはメンバー公認のお仕事、基本的に原曲に忠実ながら音の要素の一つ一つが立ち上がった深みと広がりある仕上がり。

映像の方も今年遅ればせながら初鑑賞。リプリントでとても30年前の作品とは思えない仕上がり。一つのイメージに別なイメージが重なり合って、それが意味するものを追いかけている内にまた別なイメージが被さってくるまるで気持ちいい夢の中にいるようなうっとりとした気分。あっという間の90分。

こいつはある意味危険な現実逃避映画であります。自分自身に煮詰まった時はすかさ

ずこいつを大音量で見ることにしよう。

■Brian Wilson/Landy locked (Geritol/62042)

1stソロ「Brian Wilson」や幻の2nd「Sweet Insanity」と98年発表の「Imagination」の間を埋めるブライアンの音的試行錯誤期として外せない96年のアンディペリーセッション音源集が今年リリースラッシュで誠にうれしい限り。

「Brian Wilson and Andy Paley Sessions」(Chief's Records)、「Soul Searching」(Sound Improvement)など音質、構成とも優れたものがたくさんござんしたが、ちょっとピッチが早いもののジャケ、音質など総合面でこいつに軍配。ペリーセッションもので最初に手に入れたアルバムで最も愛着があるし。

音の感触としては「Holland」のソウルフルな味わいと「Sunflower」の優しさが入り交じった個人的にはブライアンソロの最高の仕事と感じている仕上がり。「Brian Wilson」「Sweet Insanity」のおもちゃ箱をひっくり返した世界も嫌いじゃないけどブライアン流ウォールオブサウンドがそのほとんどが日の目を見なかったもののこの時点で完成していたという事実が実に興味深くてうれしたのし。こいつを経て後者の部分が「Imagination」として実を結んだ訳だ。

一般的に長いことリタイヤ状態だったブライアンがリハビリ期間を経て昨年「Imagination」で帰ってきたっていうイメージがあるんだろうけど、1stソロ発表以来ブライアンの創作意欲にとどまることがなく優れた作品を作り続けていたわけで、それを世の中に出すことがうまくできなかったブライアンはホントに不幸な男だわ。でももう大丈夫だよな。

現在も比較的容易に店頭で見掛ける作品で内容の良さに対して単価も安いので、ご興味を持った方は是非ご入手を。

また今年は「Sweet Insanity」ものの決定版とも云えるEver Greenの2枚組(EGCD-01/02)も出ましたな。さっきも書いたけど89年に2ndソロ作として完成を見ながら、リリースを拒否された不遇のアルバム。基本ラインは1stに近いけど悪名高いが憎みきれない精神科医ランディの支配下にあったブライアンがポップなサウンドに露骨なBB批判や自己否定を盛り込んだ作品。ディランとのデュエット作や過去のBB作品をコラージュしたラップなんかもあったりしてこいつも楽しいんだなぁ。マスターテープ盗難でもうオフィシャルリリースは望めないんだろうけど、こいつは孫テープくらいの音質で充分楽しめます。

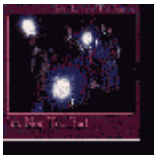
■John Lennon/Mind Games (TOCP-6858)

99年はジョンの作品を聴きまくった1年でもありました。良いとはわかっていても何だかいつでも聴けるからとついつい後回しにしていたというのが正直な所。苛立ちも泣き虫も全部さらけ出した「John Lennon & Plastic Ono Band」「Imagin」も大好きだけど、「とりあえずジョンを1枚」って時に手が伸びるのは決まってこの作品。ジョン個人としては政治問題やらヨーコとの不仲がささやかれたりして大変な時期だったみたいだけど、ジョンがこんなに安らかな声を出してたのってこの作品ぐらいなんじゃなかろうか。

どうも一般的に評判が芳しくない作品みたいだけど、よくわかんないもんであります。アルバムとしての完成度は一番高いと思うんだけど。「Mind Games」「Sisumasen (I'm Sorry)」「Out The Blue」等名作多数収録。

何だかんだでヤラレタ日はこいつに随分助けられた、そんな1枚でありやした。

■John Lennon & The Beatles/It's Not Too Bad (PegBoy PB1008)



一度足突っ込んだらもう出られないだろうと見て見ぬ振りしてきたブート界にずっぽり入り込んでしまったのがまさに今年。CD-R導入でもっぱらトレード専門で自分財布が痛むってことはあまりないのだけれど、Beatles、BeachBoysをメインにさっき数えたら集めに集めたり聴きに聴いたりの300枚以上。トレード界ではいっぱしのコレクターに成り上がってしまいました。バカですねぇ。

こいつはまさにそのきっかけとなった1枚。

ずっと欲しかったんだけど当時は店頭であまり見掛けなくなっていたんだよなぁ(最近は再プレスものが4000円しない位で出てます)。

副題「The Evolution of Strawberry Fields Forever」が示すとおり、同曲のデモからリハーサル、そして完成テイクまで製作過程の現存する音源を詰め込めるだけ詰め込んだ作品。たった1曲でこんなアルバムが出来るのもこの曲がどれだけ彼らの楽曲の中で特別な位置にあるってことかと思う。

テレコで録音したようなアコギ一本での作りから始まり(これはジョンも一緒なんだよなぁ。途中風呂場で録音したりして。これもやるやる、うんうん)、自宅のスタジオでのデモ作成、ビートルズとのセッション、そして完成形へとまさに原石がダイヤモンドへと発展していく様を覗くことが出来る。至福の60分。

そんな喜びを私みたいな不器用に全てを書き表せる訳はなく、時々メールのやりとりをさせていただいている札幌の大道さんが「Strawberry Fields Forever」研究サイト「Nothing Is Real」(http://www.bekkoame.ne.jp/ha/nurk-twin/)を運営されているので是非こちらもご覧くださいませ。

次点

■Brian Wilson/出る出るブライアン(TORCD-997)

自分が粘着質の性格だってことは重々承知してたけど、この次点入れてBeachBoys関連が3、Beatles関連が3となるとは大笑いです。でも昨年(http://www.remus.dti.ne.jp/~kakou/985/top.htm)は5枚の内BB関連が4だからちょっとはリスナーとしての幅が出てきたってことなんでしょうかね、はい。でも97年(http://www.t3.rim.or.jp/~kakou/975/frame2.htm)の時はまだ健康的だったんだけどな。まぁとにかく1年間聴いてきた音楽の中で最も印象に残った上位ということで、これればかりは嘘はつけないわけで。だって聴いてて面白いんだから仕方がない。

さてさて本題。

99年私の音楽的最大の事件といえば何と云っても7月のブライアン来日。さんざんハマロクコーナー(http://www.t3.rim.or.jp/~kakou/hama/hama.htm)やらで騒がせていただきましたが。生きて良かった、ガンバッテ来て良かったとはまさにこのこと。

当初神を拝みに行きでもするみたいな覚悟でいたのだけれど、いやいやブライアンは唄を作って唄う人。それはそれは楽しい時を過ごさせていただきました。2000年再来日との噂もありますが、この至福の時再びとなるのであればこの新しい年もがんばり甲斐があるってもんだ。

このアルバムは公演前、演奏予想曲(実質全部当たりだから予定曲)をCD2枚にぶち込んだもの。遁レコのCDナン

バー振ってありますが要するに手作り。MDだとアンコールの「Love And Mercy」の途中で切れちゃうんだよなぁ。出掛ける時はいつもこいつを繰り返し繰り返し聴いて、来るべき運命の日(http://www.t3.rim.or.jp/~kakou/hama/990714.htm)に備えたのでありました。■

遁生レコサイト(http://webs.to/tonreco)では毎年末、お世話になった方々に運命の出会いをしたアルバム5枚とともに1年の総括をお願いしております。99年度は左記の方々にご執筆いただきました。濃密文章が並んでおります。是非ご一読を。

【九九年度執筆者一覧】
・ばんでぃー(ハワイ)
・永井理(SEWING MACHINE)
・金森幹夫(フォークロア)
・D.Inoue(MinorRecords)
・ツツイヨウイチ(法大DM研)
・ピンクサママ&エイミー(ウェブジャングル)
・古江尚(絶対無)
・山内かおり(シノワ)
・平田徳雨(シノワ)
・下田温泉(insect taboo)
・フルタツ(サイケピンキーズ)
・ヒロセマサヒト(フリーボ)
・サカテヨウスケ(フラ・ドードー舎)
・オカモト(フラ・元ブラン)

遁レコ関連リリース情報

遁レコCD第２弾！
ブラン
「at Fandango 980621」(TORCD-2)
1,000円(送料+手数料込)

20分間のヘビーワルツ。
遁生レコCD第２弾はプラン98年６月大阪十三Fandangoでの実況録音。「オレハ貝になる」「夢うつつ」「君をさらって」「Lorca(仮題)」及びボーナストラック１曲収録。
*遁レコへ直接のお申し込みはメールでご一報願います。(商品のご用意に２～３日掛かります。)
WEB JUNGLE、及び直営店ナチュラルステップでも取り扱っております。オンラインでの申込みフォームはhttp://www.jungle.ne.jp/ns/shohin/11543.html。

最新音源無料配布中！
ブラン
「200004demo」

2000年爆裂活動宣言のブランの最新一発録りデモ音源集。収録は新曲「その先」「うつし世は夢」、ドラムレスにピアノを加えリアレンジの「自爆」他。
現在無料配布中。kakou@t3.rim.or.jpまでご一報あれ。その他最新音源は遁レコサイト(http://webs.to/tonreco)の「音源ライブラリー」にてリアルオーディオのストリーム再生、及びMP3ダウンロードにてご提供しております。

在庫僅少
gyuune phycodelic sampler
「あぶない音楽」(gyuunecasseteCD95-13)
2,500円(税別)
全国インディー取扱店にて発売中
ブラン(ex.遁生)、97年大阪遠征時レコーディング音源より「自爆」を収録。ギューンカセットで年１回製作しているサイケオムニバス。
＜他収録バンド＞
奇島残月と無礼人（ヰタ・セクスアリスのg、伊藤氏のソロユニット）/シノワ/Mady Gula Blue Heaven/Rare Phychedelic Off(Labcryのミサワ氏の別ユニット)/タバタミツル(ゼニゲバのgのソロ)/サイケデリックジャンパー/ゾン/ずこうびじもく/アンティークフォークロア/ヰタ・セクスアリス
*遁レコでは取り扱っておりません。

可幸月貝
「fragment'95-'98」(TORCD-1)
98.12.発表
1,000円(送料+手数料込)

ブランの活動と平行して録り貯めたソロ宅録作品の集大成。前作から３曲、遁生時代のデモ、ブランのボツ曲のセルフ カバー、その他新曲多数の充実の内容。 全編湿り気と歪んだ映像に包まれた超私的な音世界。
*遁レコへ直接のお申し込みはメールでご一報願います。(商品のご用意に２～３日掛かります。)
WEB JUNGLE、及び直営店ナチュラルステップでも取り扱っております。オンラインでの申込みフォームはhttp://www.jungle.ne.jp/ns/shohin/11449.html。

■お知らせ
遁レコサイト「遁生レコードの世界」(http://webs.to/tonreco)では、ブラン、可幸月貝等所属アーティストの最新情報、豪華執筆陣による連載等、圧倒的な情報量で貴方に迫ります。騙されたと思って是非一度ご訪問下さい。
今回約1年ぶりの紙媒体での「遁レコ通信」の発酵と相成りましたが、通常はe-mailでの配信を行っております。メールマガジン「遁レコ通信」は遁レコサイトのダイジェスト、更新情報、また速報性の高いオリジナルコンテンツも充実。お申し込みは遁レコサイトにて(配信はインターネットの本屋さん『まぐまぐ』(http://www.mag2.com)を利用しております)。
紙版「遁レコ通信」(過去6号発行)のバックナンバーは遁レコサイトの「宣材ライブラリー」に、メール版(過去21号発行)は「メールマガジン遁レコ通信」のコーナーにございます。

■発行
遁生レコード
代表アダチ
http://webs.to/tonreco
kakou@t3.rim.or.jp
平成十二年四月十二日